

第3回酒田市総合計画審議会会議録

日 時 平成19年2月27日(火) 午後1時30分～午後2時55分

会 場 市民会館(小ホール)

◎出席者

・会長

齋藤 成徳

・委員

檜山 實 青葉 礼次 池田 幸雄 山中 俊 小林 隆逸

大井よ志子 齋藤 藤八 池田 正昭 星川 功 日下部仁司

高橋 敏一 武田 恵子 本間 清和 服部 正規 富田ユリ子

齋藤 義明 齋藤 龍彌 柴田 俊弥 和田 明子 佐藤 英治

・欠席委員

大井よ志子 富樫 秀克 小松 隆二 中瀬 義秋 佐藤 吉雄

・事務局職員

松本 恭博 阿部 雅治 杉原 久 阿部 勉 菊池 裕基

池田 恒弥 大谷 謙治 前田 茂男 菅原 信二 遠藤 裕一

1 開 会

2 報 告

- (1) 策定スケジュールの変更について

3 協 議

- (1) 酒田市総合計画の構成について
(基本理念・都市の将来像・施策の大綱)
- (2) その他

5 閉 会

開会 午後 1時30分

○事務局（杉原久） 本日はお忙しい中、総合計画審議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。開会に先立ちまして審議会委員に交替がありましたので、新たに委員になられた方をご紹介申し上げます。酒田青年会議所理事長服部正規様でございます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、本日資料を事前に送付させていただいておりますが、もしお持ちになられていない委員がおりましたら事務局まで申し出てください。本日の資料といたしまして報告、協議資料として1から4まで、参考資料といたしまして1から3までを送付させていただいております。本日追加資料といたしまして参考資料4と委員名簿を準備させていただきました。

1. 開 会

○事務局（杉原久） それでは総合計画審議会に移らせていただきます。

酒田市総合計画審議会条例第6条の規定によりまして、会長が議長になる事になっており

ます。それでは、会長よろしく申し上げます。

○会長（齋藤成徳） この審議会は酒田市にとっても柱になる審議会ですので、皆さんからいろいろなご意見とご指導をいただきたいと思えます。さっそく開会させていただきます。ただいまから第3回酒田市総合計画審議会を開会いたします。

本日の出席委員は20名でございます。委員の定数25名の過半数を超えておりますので、酒田市総合計画審議会条例第6条第2項の規定によって、開会が有効であることを報告いたします。総合計画策定作業も現状と課題の整理を終えながら、具体的な計画策定に入っていくこととなります。新しい市の方向性を決める総合計画でもありますので、後世に誇れるようなしっかりとした計画になるように委員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

2. 報 告

○会長（齋藤成徳） それでは、皆さんのお手元に配布されている次第によりまして、報告に入らせていただきます。報告の（1）総合計画策定スケジュールの変更について事務局より説明をお願いします。

○事務局（阿部雅治） 策定スケジュールの変更ですが、昨年11月に現状と課題が完了しております。その時点で今後の進め方について、もう一度事務局で検討した結果、当初の予定では2月ごろに基本構想案をまとめて、当審議会で議論してまちづくり意見交換会、50人会で市民の意見を頂きながら、その後に基本計画の策定に移るというスケジュールでありましたが、今回、基本構想、基本計画が議会に提案されるということもあり、一緒に全体像を示した上で、市民の意見を頂きながら修正し、計画案をまとめていった方がよりわかり易いのではないかということになりました。そこで今回基本構想と基本計画の全体像を示すというスケジュールに変更させていただいております。本日協議をいただく内容を加え、第一次原案の骨子となるようなものを作成して、4月下旬ぐらいまでにそれに基づいて第1次原案を作成したいと考えております。今日協議いただいたことについて文章に表して原案を作成し、審議会の意見を伺った上で、まちづくり意見交換会、50人会を開催して市民の意見をいただくような作業に入っていきたいと考えております。さらに市民の意見をまとめて審議会に市民の意見を示し、市民の意見を入れた上で議論をしていただき、8月上旬まで意見をまとめて答申をいただきたいと思えます。答申をいただいて9月の議会に提案していくこととなります。

○会長（齋藤成徳） ただいま事務局よりスケジュールの変更について説明がありましたが、これについて皆さんからご質問はございませんか。無いようでしたら報告事項ですので、次に進めさせていただきます。

3. 協 議

○会長（齋藤成徳） 3の協議に入らせていただきます。（1）酒田市総合計画の構成について事務局より説明をお願いします。

○事務局（阿部雅治） 資料説明。 — 省略 —

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。事務局から説明ありました、皆さんご質問、ご意見があれば頂きたいと思いますが、最初に基本理念から皆さんの意見をいただきたいと思います。八幡商工会の池田さんお願いします。

○委員（池田幸雄） 今内容を見ておりますが、すばらしく整理されていると思います。感心しているところです。防災関係等がありますが、八幡の時には、何パーセント出来たから、次はここというように、防火貯水槽についてもいろいろ検討してきましたが、最近は消防関係から遠ざかっているのでむずかしくなっています。酒田市においては、旧酒田市ではないと思いますが、災害、震災、土砂崩れなど八幡、平田、松山については、山間部もありますので十分検討していかなければならないと思います。内容については次回まで整理してご報告出来ればと考えております。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。次にボランティア協議会の富田さんお願いします。

○委員（富田ユリ子） 皆さん討論した結果で、すばらしいものが出来上がったと思っています。特に意見はありません。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。次に青年会議所の服部さんお願いします。

○委員（服部正規） 改めまして1月1日から社団法人青年会議所第41代理事長を担っております服部と申しますよろしく申し上げます。私たちも昨年度40周年を迎えまして、新たなまちづくりということで議論をしてまいりました。その中で若者が定着しないというところに視点を置きまして考えた時に、自分のまちに誇りが持てないことがあるのかなと考えま

した。ぜひ、基本理念の中に誇りの持てるまちづくりという言葉を入れていただければと思います。若者にもわかり易いし、地域の人々にもわかり易いと思いますので検討をお願いします。

- 会長（齋藤成徳） ありがとうございます。次にPTA連合会の齋藤さんをお願いします。
- 委員（齋藤義明） 基本理念について皆さんの意見を聞いた中で私はこれで良いと思います。私たちが一番関わる部分が人の部分ですが、いろいろな意見があると思いますが、昨今は心が荒れているということが耳に入ってきます。酒田は、そのようなことのないまちにしたいと思いながら微力ながら活動をいする状況ですので、心豊かに健やかで未来に向かうまちづくり、そして次に地域もありますが、我々も最近笑顔という言葉を使うようにしています。そのような言葉が市の基本理念の中に盛り込まれることはたいへんありがたいと思います。我々の子どもたちが、この言葉を記憶の中に僅かながらも留めながら、我々の年代になった時にそういうものがよみがえればありがたいと思いますのでこれでよろしいと思います。
- 会長（齋藤成徳） ありがとうございます。基本理念についてご意見をいただきましたが、次に都市の将来像についてご意見をいただきたいと思います。酒田地区医師会長の本間さんをお願いします。
- 委員（本間清和） 高齢者にやさしいまちを入れてほしい。都市機能からすると若者が活発に活動し、経済力もあって活力という面でクローズアップされる。しかしこれからは後期高齢者ということで、お年寄りにやさしいまちづくりが一つのベースになり、そこから出て行く地域の病院から在宅までの医療連携、介護、福祉、さまざまな事業体、社会福祉協議会など一括した市全体の取り組みをやらなければならないという時代が、そこまで来ていると思います。この辺はスピードを上げて開始していかなければならないし、プロジェクト、構図を見据えてやっていかなければならないと思います。
- 会長（齋藤成徳） ありがとうございます。次に連合の武田さんからお願いします。
- 委員（武田恵子） 将来像の文言を読んで良いなと思いました。書いてあることについて賛成です。前向きで未来に向かっていくということが良いなと思って読むことができました。ただ、若干長いかなと感じるところがありました。「笑顔ふれあいより」は、長いのかなと思ったのも事実です。本間委員のように高齢者というのも、どこかに入っていると思って配慮されている文言だと解釈して良いなと思ってきました。実際07年問題が始まってきて、大都会で働いてきた人たちが退職を迎えて戻って来たいまちであれば、もっと良いのではないかということも含めて、高齢者にやさしいまちは大事だと思います。入っていると解釈しており

ますがどうでしょうか。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。次に袖浦農業協同組合の星川さんからお願いします。

○委員（星川 功） 戻るようですが基本理念のところでは信頼と笑顔があふれる協働のまちとありますが、協働というのはどういうことでしょうか。協働というのはどういう意味を含んでいるか教えていただきたい。右の方を見ると環境共生とあるように農協関係は共生という言葉を使っていますが、農協が使う前に前相馬市長が共生という言葉を使っていた。共生と協働の違い、働くということですから、3章、4章の活動の中では、どのように影響するのか教えていただきたい。

○事務局（松本恭博） これまで行政がやる人、市民が受ける人という構図が強かったように思います。これからの将来を考えていくと行政と市民が同じ立場に立って、足りない部分をお互いに補い合って、一つの地域づくりをやっていこうという概念が基本的にあります。共に働くという協働という言葉を使わせていただいております。例えばコミュニティを考えた時、防災を考えた時、災害が起きてすぐに行政の支援が各人々に行き届くかという点も必ずしもそうではありません。3日間は自力でがんばりましょうと。昔、公助、自助、共助という言葉もありましたが、昨今は行政等で使われている言葉としては協働という概念、立場、立場で足りない部分を補っていきながら、大きな枠組みとして地域を作っていきましょうということで、こういう字を使わせていただいております。共生という言葉も以前から使われておりますが、お互いに責任を持って役割分担をしましょうというよりも、共に一緒に生きていきましょうという部分が強い内容を含んでいると思っています。もっとそれぞれの立場で一歩前進して、より責任体制をはっきりしながら、補っていきましょうということでご理解いただければと思います。

○委員（星川 功） 集落では、高齢化により労働力が減少していますから、自立する4町歩以上とか、国の政策に合わせてやるような以外の方がいっぱいおります。土地も遊休化していますし、高齢者や若い人が助け合いながら地域コミュニティでやるわけですが、そこに協働というのがここに入るということで、昔の結いですか「結い」の心を指しているのであれば、むらづくりを表現しているのであれば、なお良いと思います。いま、足りない部分が集落のいろいろな場面でリーダーとか自治会の役員がいろいろな面で不足しているような感じが川南ではあるようですので、そういった点はどこでも同じだと思いますが、むらづくりの「結い」の心を入れるようなものが協働であるということであれば結構です。

- 事務局（松本恭博） まさに星川委員が言われたことがベースにあると思います。「結い」となるとあくまでも地域共同体という性格が強いですが、行政、公的機関、地域活動を行うNPOなどの団体が一緒になって、それぞれの立場で責任分担をしましょうということがさらに含まれているとご理解をいただければと思います。
- 会長（齋藤成徳） ありがとうございます。八幡商工会の齋藤さんお願いします。
- 委員（齋藤藤八） 地域のことについて話がありましたが、中山間地域についてですが、少子高齢化が進み、65才以上の高齢者が大沢地区は40%以上になっている。大沢地区を見ると経済的にも情動的にも中央とは格差が出てくる状況にあります。これから地域づくりとして頑張るわけですが、どうしても高齢者だけだと情報でも経済的なものでも、平等には行かないと思いますが、だんだん人口が減っていく、極端な話しをすればだんだん村が無くなっていくという状況が懸念されます。これを今、県でもやっているようですが、農地・水・環境保全ということで、地域の維持管理をみんなでやっていくのだという方針、それから今年から導入されるみどり環境税というものが中山間地を対象にした里山などにも予算が注入されると思いますが、なんと言っても自然環境を維持していくには、若い人が実際そこに住んでいないと維持管理ができない。これは個人が努力しても住まない人は住まない。いかに中山間地に若い人を住ませるか。行政、国から力を入れていただかないと地域づくりはうまくいかないとそんなことが心配されますので、その辺を十分に自治体でも研究していただきたいと思います。
- 会長（齋藤成徳） 将来像について意見をいただきましたが、また後で相対的に意見をいただきたいと思います。次に資料4についてご意見をいただきたいと思います。みどり農協の池田さんお願いします。
- 委員（池田正昭） 資料3の関係ですが、ずっと見ておりますが、食育に関する記述が4か所ぐらい出てきます。食育の大切さが認識されてきたということだと思いますが、各分野で上げていることは良いのですが、クローズアップすることはできないでしょうか。
- 会長（齋藤成徳） 次に漁業協同組合の高橋さんお願いします。
- 委員（高橋敏一） いままでの全体会、地域に密着した意見など、立場、立場でいろいろな意見がありましたが、それを文章、文言にまとめるとすれば、ここにある文言がベストに近いベターなのではないかとそのように考えます。さまざまな意見がありましたが、酒田市民それぞれ、1人ひとりの意見があるわけですが、これをトータルでまとめれば、このようなものになるものとむしろ私は感心をしているところです。

- 会長（齋藤成徳） 自治会連合会の檜山さんお願いします。
- 委員（檜山 實） 100%目を通したということにはならないですが、関係ある部分について見たのですが、基本方針としてはこれが最良のものではないのかなと思います。具体化をする時にどのように進めていくのか。行政だけではできないと思いますので、市民一体となったまちづくりを進めていくのが大事だと思います。私たちの関係のある地域コミュニティの問題、自治会の活動の問題、特に懸念をされている防災自主組織の問題も載っていますし、自主防災については連合会と自主防災会と2つあるわけですから、2つを1つとして一体としてやらなければならないし、いろいろな形で地域防災を進めていかなければならない。そのことが入っていますので、それをどう進めていくかということが、それぞれの地域であると思いますが、行政も市民におろして行って協力を求めていく、我々もそれを理解しながら作り出していくことが大事だと思っています。基本方針を踏まえてやっていきたいと思えます。
- 会長（齋藤成徳） 芸術文化協会の齋藤さんお願いします。
- 委員（齋藤龍彌） 皆さんから貴重な意見があるようですが、1市3町の計画も見せていただいているのですが、今回の場合はよくまとまっていると思います。感服しております。確かに音楽などをやっているロゴマーク、キャッチコピーもあるわけですが、表現の仕方は多種多彩だと思いますが、前のものも出ていますが、比較しましても理念が良いまとまり方をしていると見ております。感服しております。
- 会長（齋藤成徳） 集約してご意見をいただいても結構ですのでお願いしたいと思います。体育振興会の柴田さんお願いします。
- 委員（柴田俊弥） 個々に具体的にどうのこうのというところには触れないということでしたが、テーマの影にあるもの、想像力をたくましくするものに期待するのだと思いますが、ただ、こうやって載せても、それぞれの思いは違うものと思います。先ほど3年とか5年とかありましたが、そういったものを具体化していく時の進め方については、市民の意見を最大限聞いた上で具体化していくというか、行政が一方的にやっていくようなやり方ではなく、みんなで意見を聞いた上で最大公約数に近づけていくというのが良いのではないかと思います。今示された文言については非常に良いのではないかと考えております。
- 会長（齋藤成徳） ありがとうございます。公民館地区自治会の青葉さんお願いします。
- 委員（青葉礼次） 具体的な個々の点については申し上げることはありません。うまくまとめて出来上がっているものと思います。我々地域の関係については、やはり市の行政主導に

よって上からの指示によるまちづくりというのは、ある一定の期間で補助金をもらっている時は、一生懸命やるけれどもその後途切れてしまう。地域活動そのものが地域の皆さんの協力、共生によって発展していく形に持っていかないとせつかくの構成なり、夢や将来像が途切れてしまうことがありますので、地域に対する命令的な指導的なものではなくて、地域を興すのは地域住民が主体となって、それをいかに行政が後押ししていくかというふうな形に持っていければ、将来的に発展していく可能性が非常に強くなるのではないかと思います。我々地域活動をしています。そういう面で地域に対する指示命令だけでなく、いかに行政が協力体制を作ってくれるかが、非常に大事になろうかと思います。その点一つお願いをしたいと思います。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。次に森林組合の日下部さんお願いします。

○委員（日下部仁司） たいへんよくまとまっていると感心しています。未来創造、先ほど高齢者の話しも出ましたが、若者の希望というものもあってもよいのではないかと感じたところ です。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。松山地区長の山中さんお願いします。

○委員（山中 俊） 総合計画の組み立て方は、細部にわたってよく取り上げて綿密に集約したものだといいことでまず感じています。本論に入る前に現状と課題のところの資料を頂いて、その中で特に高齢化が進んで松山地区は、ここ10年の間に高齢者が4割近くになるのではないかといいことが囁かれているような状況の中で、この従来の枠の中での自治会の活動で、後継者がいなくなるのではないかといいことが懸念されています。新聞報道では10か年の中で、中山間の集落が1,641集落無くなるというような困った事象が報道されていました。信頼性におけるものではないかということで、酒田市としてそういう事象が出てくるのではないか。若者を定着させるための策というものが、この総合計画の中に強く、市民から理解されるような方策を講じていく計画でなければいけないという感を持っています。全体的にはよく細かく集約されたものと事務方のご労苦に感謝申し上げたい。そんな意味で本計画には全面的に賛意を評するものです。これから始まる各部会で開催される計画もありますので、それまでには勉強しまして、現状と課題を捉えながら議論して参りたいと思います。総合的にはこの計画に賛同したいと思います。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。まとめということではありませんが、東北公益文科大学の和田さんお願いします。

○委員（和田明子） 関心のあることは立派な計画が本当に実行されるものであってほしいと

ということです。従来、酒田市に限らないのですが立派な計画を作ったとしても実行に至らないということを聞くことがありますので、どうしたら実行できるかに関心があります。また総合計画以外の様々な部署で計画を作っていると思いますが、ぜひ個別の計画との関係を総合計画の中に入れておいてはどうでしょうか。資料3を見ると例えば第5次側溝整備計画、これから作る観光基本計画、中心市街地活性化計画策定が入っています。既に作られている計画もたくさんあり、それらの更新もあるだろうし、ぜひ個別の部署で作られている計画との関係を総合計画の中に入れて見渡せるのではないかと思います。参考資料1の目次を見ると計画推進のために何が来るのかなと思っております。本編の重点プロジェクトには数値目標が入るようですが、必ずしも数値目標は必要だということではないのですが、事後的な評価をしていこうというのが今の大きな流れです。他の市では数値目標を毎年計って、報告書を毎年出すところもありまして、そこまでやるかは別として、ぜひ評価をどうするかというところを一工夫して、実行性あるものになればと思います。ここに書かれていることが毎年少しずつ実現されていることが実感できれば市民が関心を持って委員会などにも参加していただけるのではないかと思います。私も知恵を出したいと思います。一緒に考えていければと思います。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。平田地域の小林さんお願いします。

○委員（小林隆逸） 提示された資料については、過不足なく網羅した立派な総合計画が出来上がる予感をします。これは極めて当然のことでありまして、今回、合併による総合計画、昭和30年代の総合計画と今回と2回際立った状況の違いの中で、総合計画が組まれるものだろうと思います。従いましてそれらの視点も大事なものと考えておりますが、総体としてはそういうこだわりはしてはならないだろうと思います。この4次総まで来る経過の中で大変立派な計画を立てながら、実はその計画の進捗率が必ずしも満足するものではなかった。これはやむを得ないのですが、そういう積み上げたもろもろの過去の部分が、ここに集積されているものと思っているわけで、そういう意味では全体として、たいへん立派な総合計画が出来上がるということでもあります。しかし、一つ言っておきたいのはコミュニティに関わる課題であります。旧平田町のことを言うのははばかれるわけですが、平田町のコミュニティ体系は10分館体系でありまして、他の市町とは内容が違った形で40年経過した公民館体系であります。今回、ここでもコミュニティの重要性、あり方が総論で示されており、各論では課題になると思いますが、特に私共が気にしているのは、コミュニティの重要性を常に謳い上げながら、今回の状況下でコミュニティの郡部コミュニティ、公民館の体系が後退

するというような懸念があるようです。主事の総引き上げ、最終的に公民館の名称も地区からなくなるのではないかというような考え方が我々に伝わってきています。これらが今回の総合計画の中で、具体的に組織再編の際に整理というものが、どうなるかというところに関心があります。これらを検討する場所は、いろいろな部会等や協議会等であるのではないかと思うのですが、どうなるのか旧3町の中で、旧平田町が心配しているところですので、今日、この場所でご意見をいただくということではないですが、どのような形で収斂していくのか関心がありますので、あえて申し上げておきたいと思います。他についてはたいへん立派なものだろうと思います。

○会長（齋藤成徳） ご提言ありがとうございます。最後になります。学識経験者の佐藤英治さんをお願いします。

○委員（佐藤英治） 全体を見させていただいて、今日の検討事項であります基本理念、将来像、大綱と3つの資料についてですが、新市の建設計画があつて、人、地域、恵みで表される。これを受けて基本理念を未来、協働、活力という言葉で表した。さらにそれを将来像と言う形で、人、地域、恵みを人いきいきまち快適未来創造都市酒田と表したということは、非常にわかり易くて良いなという感じを受けました。さらに細部に検討いたしました資料4で大綱が第1章から第8章まであつて、1、2章で人、3、4、5章で地域、6、7章、5章とダブル部分がありますが恵みを表してきたということで、非常にわかり易く、しかも前の時代の潮流をよく踏まえて、新しい時代の課題であります部分として市民地域については地域力が高いという第3章、第5章の潤いと美しさの広がるまちということで追加されたということは特に素晴らしいと思いました。協働という言葉が素晴らしいなと思いました。先ほど来、出ておりますとおり、これからの時代はお上が市民に物申す時代ではなくて、逆に自立した市民が市政を作るという時代に既になっているのだろうと思います。そのことを考えた時、この協働という言葉の意味はたいへん大きいものがありますし、今後大切にしていかなければならない、たいへん良いことを入れていただいたものと感じていたところです。第5章に現在都市景観が重視される中で、快適な生活環境と心やすらぐ景観が広がるまちへ、これも時代の要請を受けた言葉で素晴らしいと思います。ちょっと一つだけ申し上げますと、この部分の①が生活環境②が美しい景観づくりということでございます。先ほど本間委員から高齢者を大切にする世の中をどこかに盛り込めないかということがありましたが、いわゆる健康面での高齢者ではなくて、老人を大切にする社会風土、空気、住みよいまちというようなことを考えていった時に、この中で言葉の上で当てはまる場所がない。やはり住みよ

いまちの中の①②はハードのみではないか。一つソフト面として、例えば言葉は、誤解があるのでそのままではないですが、異年代の交流、促進、推進というか、つまり高齢者を若者が大切にするという施策による気運の醸成、あるいは高齢者がこれまでの経験を生かして、子どもたちを育てていく空気の醸成も住みやすい酒田市の大切な要素ではないか。そういう意味ではハード面だけでなく、ソフト面ということを追加すれば、より内容が大きなものになるのではないかと感じております。全体として事務局のご苦勞によって、すばらしい流れが出来上がってきて、細かい部分について計画倒れにならない実行性のあるものにしていくことが、今後最大の課題ではないかと感じたところです。

○会長（齋藤成徳） ありがとうございます。皆さんから一応ご意見をいただきました。いろいろなお褒めの言葉もありましたし、一部表現の話もありましたし、これを行動に移すときが問題だという意見もありました。総体的にこの原案は良く出来ているなど評価を得たのではないかと感じております。したがって、字句的な直す部分については、議長と事務局にお任せいただいて今日の会議では皆さんから原案に賛成いただくということでいかがでしょうか。

〔「意義なし」と発言する者あり〕

○会長（齋藤成徳） 皆さんからご審議いただきありがとうございます。協議事項はこれで終了させていただきます。何か事務局からございますか。

○事務局（阿部雅治） ご協議ありがとうございます。次回の審議会になりますが、今回のご意見を踏まえまして第1次原案を作成します。第1次原案を示すのが4月末となっております。また、その時全体会を開かせていただいて、その後、各部会に分かれて細かいご意見をいただくことでスケジュールを組んでおりますので、次回は4月の末になりますがご案内を差し上げますのでよろしくお願いします。

○会長（齋藤成徳） どうもありがとうございます。以上で今日の酒田市総合計画審議会を閉会といたします。お忙しいところありがとうございました。

閉会 午後 2時55分